

国立岩手山青少年交流の家 教育事業  
「体験の風をおこそう」運動協賛事業



さんいくの今を  
見て・聞いて・感じて

さんいく体験!



発見隊報告書



平成26年～平成29年



体験の風をおこそう



## 目 次

### <はじめに>

国立岩手山青少年交流の家 所長	1
-----------------	---

I 事業概要	2
--------	---

1 趣旨	2
------	---

2 事業名及び期日	2
-----------	---

3 対象者及び参加内訳	2
-------------	---

4 指導者，担当職員，ボランティアスタッフ等	2～3
------------------------	-----

II 事業の実際	
----------	--

1 平成26年度「さんりく体験！探検ツアー 最初の一步」～岩手横断370km～	4
---	---

2 平成27年度「さんりく体験！探検ツアー」	5
------------------------	---

3 平成28年度「さんりく体験！発見隊」	6
----------------------	---

4 平成29年度「さんりく体験！発見隊」	7
----------------------	---

III 事業の成果	
-----------	--

・ アンケート結果	8
-----------	---

・ 参加者の声	8
---------	---

IV 事業の課題	9
----------	---

V 今後の展望	9
---------	---

○ 資料 お世話になった被災地の教育施設一覧	
------------------------	--

参加募集チラシ

## はじめに

あの東日本大震災から、7年が経ちます。

私たちの所在する岩手県は日本の47都道府県の中で北海道に次ぐ広大な面積を有しています。片側を奥羽山脈に面し、もう片側を太平洋に面しています。このことから、山からも海からも「恵み」と「自然」という両方の資源を得ることができる立地にありますが、一方では自然災害の影響も受ける立地でもあります。とりわけ太平洋に面する沿岸部では明治三陸地震、昭和三陸地震と度々大きな被害を経験していましたが、東日本大震災では想像を超える大きな津波により未曾有の被害を受けました。改めて「自然の力」に気付かされるとともに、この大震災を「風化させない」「忘れない」ために当交流の家では東日本大震災からの津波被害から復興に向かっている岩手県沿岸部の現在を、内陸部の小中学生が被災地を訪問して「実際に自分たち自身の目で見て、話を聞いて」防災の意識の向上・体験をするとともに被災地の復興の現状を理解し、復興支援の一役を担う意識を高める趣旨で平成26年度から教育事業として実施をいたしました。

また、この事業を「地域力向上事業」と位置付けて県立の各青少年教育施設と連携して実施できたことも今後、同じ課題を共有して様々な事業を連携・協力して進めていくにあたっての契機となるものと思料いたします。

平成26年度から実施の「さんりく体験！探検ツアー」のネーミングを平成28年度から「さんりく体験！発見隊」にネーミングを変更したことは参加の小中学生が所謂ツアーに終始することなく、事業の趣旨を理解し沿岸部・三陸海岸の現状から自分自身が感じる新しい「発見」を得て欲しいことから変更をいたしました。

まだまだ復興が途上の時期にもかかわらず事業の趣旨を理解いただき、ご支援ご協力をいただきました関係の皆様には感謝を申し上げます。なかでもNPO法人体験村・たのはたネットワークの道合理事長をはじめといたします田野畑村の皆様方には各家庭での「民泊体験」において、毎回工夫をいただき日常とは異なる沿岸部家庭との交流がリピーターとして参加者の動機となるなど交流・理解の促進につながったものと御礼を申し上げます。

この事業の実施で得た課題を次への展望として「自分たちの住む地域を知る」事業へとつなげていくこととする所存です。今後ともなお一層のご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成30年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家 所長 松田 栄二

# I 事業概要

## 1 趣旨

東日本大震災の被災地も徐々にではあるが復興に向かっている。この中で、震災を「風化させない」「忘れない」ために、岩手県の将来を担う児童生徒たちが、被災地を訪問し、沿岸地域の人々の自然体験活動を通して触れ合う中で、被災地の復興の現状を理解し、復興支援の一役を担う意識を高める。

## 2 事業名及び期日

- (1) 第1回「さんりく体験！探検ツアー 最初の一步 ～岩手横断370km～」  
平成26年7月19日（土）～ 7月21日（月） 2泊3日
- (2) 第2回「さんりく体験！探検ツアー」  
平成27年7月18日（土）～ 7月20日（月） 2泊3日
- (3) 第3回「さんりく体験！発見隊」  
平成28年7月16日（土）～ 7月18日（月） 2泊3日
- (4) 第4回「さんりく体験！発見隊」  
平成29年7月15日（土）～ 7月17日（月） 2泊3日

## 3 対象者及び参加内訳

単位:人

	5年生		6年生		中学1年生		中学2年生		合計	応募状況 ( )内は予定定員
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		
第1回	9	3	8	5	0	2	0	0	27	31(30)
第2回	3	6	8	5	1	3	0	2	28	28(30)
第3回	6	9	6	4	0	0	2	2	29	31(30)
第4回	4	9	2	6	1	2	2	2	28	41(30)
合計	22	27	24	20	2	7	4	6	112	

※全ての回の募集定員は30名とした。第1回は31名の応募があり、当日は27名の参加であった。第2回は28名の応募者全員の参加であった。第3回は31名の応募があり、29名の参加であった。第4回は、41名の応募があり抽選によって30名に絞ったが、キャンセルもあり28名であった。事業の実施にあたっては、法人ボランティアの協力を得て行うようにしたが、第4回は1名のみの参加であったため、グループリーダーとしての活動ではなく参加者全体のサポートを行った。

## 4 指導者、担当職員、ボランティアスタッフ等

- (1) 第1回「さんりく体験！探検ツアー 最初の一步 ～岩手横断370km～」

NPO法人 体験村・たのはたネットワーク	コーディネーター	道合 勇一 氏
たろちゃん協同組合	理事長	箱石 英夫 氏
宮古観光文化交流協会	会長	澤田 克司 氏
陸中海岸青少年の家	所長	菊池 清太 氏
山田町水産商工観光課 観光振興係	主任	村上 学 氏
シーカヤック三陸 メサ	代表	草山 雅之 氏
やまだ夢プロジェクト	実行委員長	間瀬 慶蔵 氏
ユナイテッドグリーン	代表理事	山田 周正 氏
国立岩手山青少年交流の家	次長	長代 健児
	企画指導専門職	中田 春輝
	企画指導専門職	中村 和宏
	事業推進係	中野 健二
	事業推進係	長谷川 祐太
	法人ボランティア	高橋 諒
		首藤 礼
		沼田 真奈
		青木 眸美

(2) 第2回「さんりく体験！探検ツアー」

NPO法人 体験村・たのはたネットワーク  
三陸鉄道株式会社  
国立岩手山青少年交流の家

理事長	道合 勇一 氏
代表取締役社長	望月 正彦 氏
所 長	松田 栄二
主任企画指導専門職	桑原 玲子
副主任企画指導専門職	中田 春輝
企画指導専門職	丹 康浩
事業推進係	中野 健二
事業推進係	高橋 知也
法人ボランティア	荒関 峻也
	沼田 真奈
	茂石 祐香
	佐々木 藍
	田中 照美

(3) 第3回「さんりく体験！発見隊」

岩手県立陸中海岸青少年の家  
岩手県立県南青少年の家  
NPO法人 体験村・たのはたネットワーク  
宮古観光文化交流協会  
国立岩手山青少年交流の家

所 長	菊池 啓子 氏
指導員	中村 和宏 氏
理事長	道合 勇一 氏
会 長	澤田 克司 氏
所 長	松田 栄二
主任企画指導専門職	桑原 玲子
副主任企画指導専門職	中田 春輝
企画指導専門職	鎌田 信浩
事業推進係	中野 健二
事業推進係	高橋 知也
法人ボランティア	田中 照美
	下道 諒志
	櫻井 優樹
	渡邊 裕人
	村岡 凌

(4) 第4回「さんりく体験！発見隊」

岩手県立陸中海岸青少年の家  
  
釜石市防災危機管理課  
日本ボーイスカウト岩手連盟  
宝来館  
東京大学大気海洋研究所  
NPO法人 体験村・たのはたネットワーク  
国立岩手山青少年交流の家

所 長	菊池 啓子 氏
指導員	似内 仁 氏
指導員	佐藤 和行 氏
主 事	菊池 広昭 氏
理事長	末永 正志 氏
女 将	岩崎 昭子 氏
教 授	河村 知彦 氏
	赤坂 広太 氏
所 長	松田 栄二
主任企画指導専門職	鎌田 信浩
企画指導専門職	上村 佳邦
事業推進係主任	藤根 智子
事業推進係	佐々木翔也
法人ボランティア	佐々木 藍



## 2 平成27年度「さんりく体験！探検ツアー」

### <事業企画のポイント>

野外活動を通じて被災の状況や復興の様子を感じ取れるように、担当者は現地に足を運び連携先と綿密な打ち合わせを行った。内容については、震災の恐ろしさよりも、復興に向かっている前向きな状況に重点を置いた。

#### 【1日目 7月18日（土）】

			13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
受	開	アイス	災害時の野外炊事				入浴	避難所体験				
付	会	ブレイク										
	式											

#### 【2日目 7月19日（日）】

					9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
岩手山青少年交流の家→久慈市 バス移動			昼食 久慈グランドホテル	三陸鉄道 震災学習列車 久慈～田野畑	田野畑村 民泊体験													

#### 【3日目 7月20日（月）】

					9	10	11	12	13	14	15	16	
サッパ 船体験	机浜 番屋群 見学	昼食	田野畑村→ 岩手山青少年交流の家 バス移動				閉 会 式						

### <運営のポイント>

野外活動を通じて被災の状況や復興の様子を感じ取れるように、担当者は沿岸現地に足を運び連携先と綿密な打ち合わせを行った。今年度は三陸鉄道株式会社と連携し、震災学習列車を貸し切って、沿岸部での復興の様子を学習することができた。プログラムの内容については、震災の恐ろしさよりも、復興に向かっている状況に重点を置いた。

1日目は「助け合う心を学ぶ」というテーマのもと、岩手山青少年交流の家で「防災キャンプ」を行った。強化ポリエチレンの袋で無洗米の炊飯とカレー作り、段ボールを使って避難所の疑似体験を行った。

2日目は「さんりくの暮らしを知る」というテーマのもと、震災学習列車乗車・民泊を行った。震災学習列車を通じて東日本大震災の被災状況と復興の現状について理解を深め、民泊では受入家庭の手伝いをし、食事をとりながら交流を深めた。

3日目は「さんりくの自然を感じる」というテーマのもと、サッパ船体験で海での野外活動を楽しんだ後、今年の春に復元された机浜番屋群の見学を行った。海の日イベントも催され、塩作りの番屋で海水から塩を作り出す工程を見学したり、漁具展示の番屋で漁具に触れたりした。



非常時の食事づくり体験



避難所疑似体験



民泊先での自然体験

### 3 平成28年度「さんりく体験！発見隊」

#### <事業企画のポイント>

本年度の国立青少年教育振興機構における地域力向上事業として、岩手県立県南青少年の家と検討委員会を組織し、企画段階から連携して地域の教育資源を生かすプログラムを検討した。検討委員会で協議した内容をもとに、野外活動や地域の方々との交流を通じて被災の状況や復興の様子を感じ取れるように、担当者は事前に現地へ足を運び、活動場所や連携先の検討を行った。内容については、被災の様子や復興状況について地域の実情を知り、震災を乗り越え、復興に向かっていく前向きな状況を感じとれるものに重点を置いた。

#### 【1日目 7月16日(土)】

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
受付・開会式	岩手山青少年交流の家 → 大槌町 【バス移動】		昼食	荒神海水浴場 散策	入所式	震災の話	夕食・ 休憩	クラフト作成 ふりかえり	入浴・ 就寝準備	就寝				

#### 【2日目 7月17日(日)】

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
朝食 荷物整理	陸中海岸 青少年の家 → 宮古市 【バス移動】	三陸 復興 国立公園	学ぶ防災 田老地区	昼食	バス移動	田野畑村 民泊体験										

#### 【3日目 7月18日(月)】

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
田野畑村 民泊体験	移動	サッパ船 体験・ 交流会	昼食	田野畑村 → 岩手山青少年交流の家 【バス移動】		閉 会 式				

#### <運営のポイント>

参加者が被災の状況や復興の様子を感じとれるように、実際に現地へ行き、見たり、ふれたりする活動を取り入れた。併せて、震災に関わる体験談や語り部によるガイドを聞くことにより、震災当時の様子と5年経った被災地の現状を重ね合わせ、これからの自分に何ができるかを気づかせていきたいと考えた。

1日目は、荒神海水浴場で散策をしながらマリングラスや貝殻を拾いクリアキャンドル作成の材料とした。初日の宿泊施設の岩手県立陸中海岸青少年の家では、所長の菊池 啓子 氏から大槌小学校在職中に体験した「震災の話」を伺うことで、震災当時の状況や被災した子どもたちや家族の様子について理解を深めた。

2日目は、三陸復興国立公園 震災メモリアルパーク中の浜 へ行き、震災遺構や津波の高さを体感する丘を散策した。また田老地区の「学ぶ防災」では、実際に防潮堤に上がり、語り部から震災時の様子や町の現状について話を聞いたり、津波のビデオを視聴したりすることで、改めて津波の恐さを実感することができた。2日目の宿泊は田野畑村において民泊体験を行った。民泊では9つの受入家庭に分かれ、漁業体験や食事の手伝い等をとおして、各家庭で交流を深めた。3日目は民泊の受入家庭と別れ、サッパ船で北山崎の岩穴を巡る乗船体験をした。その後、乗船したサッパ船の船頭さんと交流会を行い、漁師の仕事のことや乗船の感想、震災のときの様子などの話をとおして、互いの思いを伝え合った。



震災時の様子を聞く



震災遺構見学



民泊先での夕飯づくり

## 4 平成29年度「さんりく体験！発見隊」

### <事業企画のポイント>

本年度の国立青少年教育振興機構における地域力向上事業として、岩手県立陸中海岸青少年の家と、企画段階から連携して地域の教育資源を生かすプログラムを活用した。検討協議した内容をもとに、野外活動や地域の方々との交流を通じて被災の状況や復興の様子を感じ取れるように、担当者は事前に現地へ足を運び、活動場所や連携先の開拓を行った。内容については、被災地の様子や復興状況について地域の実情を知り、震災を乗り越え、復興に向かっていく前向きな状況を感じとれるものに重点を置いた。

【1日目 7月15日(土)】

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
受付・開会式	岩手山青少年交流の家 → 釜石市 【バス移動】		釜石市役所で講話を聞く	移動	昼食	宝来館にて津波の講話&津波甚句	移動	東京大学大気海洋研究所で講話を聞く	移動	陸中海岸到着	夕食	海釣り体験	入浴	就寝

【2日目 7月16日(日)】

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
朝食 荷物整理	陸中海岸 → 大槌町 【バス移動】	城山公園 視察	海を知ろう 一般公開 東京大学大気 海洋研究所	昼食	→ 田野畑村 【バス移動】		田野畑村 民泊体験				就寝					

【3日目 7月17日(月)】

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
田野畑村 民泊体験	サッパ 船 体験	机浜 番屋群 見学	昼食	田野畑村 → 岩手山青少年交流の家 【バス移動】		閉 会 式				

### <運営のポイント>

参加者が被災の状況や復興の様子を感じとれるように、実際に現地へ行き、見たり、聴いたり、ふれたりする活動を取り入れた。併せて、震災に関わる体験談や津波甚句を聞くことにより、震災当時の様子と6年経った被災地の現状を重ね合わせ、これからの自分に何ができるかを気づかせていきたいと考えた。

初日は、釜石市役所防災危機管理課を訪れ、震災の映像と現在までの復興の進捗、そして、日頃避難訓練の成果が小中学生の命を救ったことなど貴重なお話を聞いた。その後、根浜海岸にある宝来館にて津波に襲われ、孤立した中でも地域住民と助け合い乗り切ったこと、津波甚句を作り後世に日頃の備えの大切さや「てんでんこ」と呼ばれる自分の命は自分で守る意識をもつことの大切さを学んだ。初日最後の活動として、岩手県立陸中海岸青少年の家での海釣り体験を行った。8割の参加者は初めての体験で、海の雄大さはもちろんのこと海での楽しみ方も経験し、家族でまた海に来てみたいと口々に話していた。施設では、菊池所長から震災当初は避難所になったことや小学生が仮設校舎として勉強した話などを伺い、当時の大変な状況を学んだ。

2日目は、東京大学大気海洋研究所の公開イベントに参加し、震災後の海中の変化を学んだり、海の生物を直接触ったりと普段はできない体験をした。大槌の住民による祭りも行われており、海とともに生活をする地域の人々ともふれあうことができた。その後、田野畑村において民泊体験を行った。民泊では、9つの受入家庭に分かれ、漁業体験や食事作り、家族とのふれあいを行った。

3日目はサッパ船による海の野外活動を体験した。船に乗った子供たちからは「北山崎断崖の歴史について知ることができた。」「波を感じ自然や海とふれ合うことができたので良かった。」という感想が聞かれた。



震災時の話を聞く



東京大学大気海洋研究所のイベント



民泊先の方々との出会い

### Ⅲ 事業の成果

#### ～参加者に対して～

地域の実情を知り、震災を乗り越え、復興に向かっていく前向きな状況を感じとれる内容をプログラムに組み込むことができた。

#### ～沿岸地域とのつながり～

県立施設や他団体のもつ地域の教育資源を生かすことができるとともに、沿岸地域の支援につなげることができた。

#### ～公立施設との連携～

国立青少年教育振興機構における地域力向上事業として、岩手県立の施設と企画段階から連携し、企画内容の検討を重ねることで、教育事業における参加者の指導方法の情報交換や運営方法を普及することができた。

#### <アンケート結果>

○参加者の満足度（アンケート回収率100%）

単位：%

事業全体をとおして どうでしたか	満 足	やや満足	やや不満	不 満
平成26年度	73.1	26.9	0.0	0.0
平成27年度	85.7	14.3	0.0	0.0
平成28年度	86.2	13.8	0.0	0.0
平成29年度	82.1	17.9	0.0	0.0

全ての回で、参加者の教育事業全体に関する満足度・プログラムに関する満足度は共に100%であり、震災に関する学習に積極的に取り組みたいという気持ちが表れていた。また、回を重ねる毎に満足度も上がってきた。

#### <参加者の声>

参加者からは、「どれだけ被災地の方々がつらい思いをしてきたのか知ることができた。これからは復興のためになるように積極的に関わっていきたい。」「津波の話は学校でも聞いたが、それよりもっとくわしく、大変な思いをしたということがわかった。なにかの助けになりたいと思った。」などの感想が寄せられた。岩手県内に住む内陸の児童生徒が、震災時の沿岸部の様子を知ること、復興の途上にある現在を実際に見たり、感じたりすることで、同じ岩手県の地域としての一体感をもち、実状を深く知ることができた。今後は、本事業の成果をもとに、他施設・他団体との連携の拡充を図り、震災学習のモデルケースとして、県内の公立の青少年教育施設と連携を広げ、普及を目指し取り組んでいきたい。



民泊先の方々との別れ



震災時の話を聞く

## IV 事業の課題

企画に当たっては、被災後の町おこしの方向性（産業・観光・防災・食文化・野外活動など）を把握し、被災地のニーズや、復興の様子を感じ取れるプログラムの作成が必要であり、併せて、参加しやすい日程を検討することで、より多くの児童・生徒が参加できることが見込まれる。また、事業全体を通して、所外での活動が中心となるため、職員による実地踏査や事前研修を充実させ、さらなる安全管理が必要であると感じた。事故や怪我の際に、保護者への連絡や病院の手配など、迅速に対応できる体制を構築していくことは事業のリスクマネジメントとして必要不可欠である。

事業に参加するにあたり、参加者に事前学習の機会があれば、さらに復興の現状に対する理解が深まると感じた。資料の事前送付や保護者同伴の説明会等を行うことで、より明確な目的をもって参加できると考える。プログラムの内容によっては、小学校高学年には難しかったり、聞く活動が多くなってしまったりしたことから、対象学年に応じた内容を検討していく必要性を感じた。また、被災地の現状を知ることに重点を置いていた部分もあり、参加者が互いに体験したことや気づいたことについて話し合う時間を十分にもうけることができなかった。参加者同士が学習・体験したことについて、意見交換をする場面を設けることにより、今後の自分ができることへの理解や行動につながると感じた。さらに、参加者と同世代の被災地の子供たちとの交流の場を設定することで、内陸と沿岸の児童・生徒の間の架け橋として交流が長く続いていくものになると考える。

事業の普及においては、2泊3日の小学校高学年における震災学習モデルケースとして、県内外の小学校や教育施設等に発信・普及を目指した取組としていきたい。

## V 今後の展望

4年間実施してきた本事業において、東日本大震災を「風化させない」「忘れない」ために被災地を訪問し、沿岸地域の人々が体験した震災の様子を聴いたり、現在の暮らしに接したりすることで、被災地の現状を理解し、復興支援の一役を担う意識を高めることをねらいとして行ってきた。

4回の事業とも、参加者に向けて趣旨を達成できるように様々なプログラムを用意し、各回において特色ある事業運営、内容を心掛けてきた。そうした地域の現状や様子を踏まえ、今後、震災復興との関わりのある事業を行う場合は、岩手のもつ山・海・平地の生活を活かしながら、地域の産業やその土地に住む人々の思いに焦点を当てた取組を再構築し、より地域に密着した事業が展開できればと考える。特に、三陸海岸の形状や豊かな海洋資源について、内陸に住む児童・生徒に体験を通して伝えていきたいと考える。また、震災のみならず、自然災害に関わる事柄について体験を通して学んでいくことで、防災や減災についての知識や考え方、取組を次の世代につなげていきたいと考える。



防波堤見学



参加者同士の交流

## <資料>

# お世話になった被災地の教育施設一覧



## NPO 法人たのはたネットワーク

サップ船アドベンチャーズ，大津波語り部&ガイド，北山崎ネイチャートレッキングガイド，民泊斡旋などを行っています。サップ船乗車体験では，高さ200mもの断崖が続く北山崎を満喫するクルージングが楽しめるとともに，船頭さんの大津波体験を聞くことができます。民泊では，貴重な漁師の生活を体験できます。



## ユナイテッドグリーン

被災地支援活動・防災，エネルギー，環境についての講演・ボランティア受け入れ&各種コーディネート・交流の場作り・自然再生エネルギー支援・菜の花大地復興プロジェクト・三陸子供の海プロジェクト被災地域活性化支援などを通じ，釜石市から三陸地方にかけての地域支援，地域再生の道を支えています。



## シーカヤック三陸メサ

岩手を陸だけでなく海からでも楽しめる，シーカヤックを使ったアクティビティを提供しています。行き先は4つの湾からその日の海の状況によって決定されます。リアス式海岸を海から望みますので，山が迫っている場所や断崖が続いている場所など様々な風景が見られます。6歳児から体験が可能です。



## 岩手県立陸中海岸青少年の家

陸中海岸青少年の家は，海に関する様々な活動ができます。海釣りや貝や小石を入れたマリンキャンドル作りは海の施設ならではのプログラムです。

また，近くには登山を体験できる鯨山もあり，頂上からは三陸の海が一望できます。施設から見る朝日は絶景です。



## 東京大学大気海洋研究所

東京大学の研究施設です。大気海洋科学の基礎研究を目的とした全国の研究者の拠点でもあります。震災前後の海洋生物の生態の変化や三陸の漁場について詳しく知ることができます。夏には，公開イベントがあり調査船の中を見学したり，ドローンの操縦を体験したりすることができます。海洋生物に直接触れられるのも魅力です。

平成26年度国立岩手山青少年交流の家教育事業「体験の風をおこそう」運動協賛事業

# さんりく体験!



# 探検ツアー

## 最初の一歩～岩手横断370km～

### 7.19 SAT - 7.21 MON

#### 1DAY

～さんりくを知る～

- ・ サッパ船体験
- ・ 地元のお家お泊り体験



#### 2DAY

～さんりくを学ぶ～

- ・ 岩手県沿岸見学  
 田野畑村～山田町

#### 3DAY

～さんりくへ漕ぎ出す～

- ・ シーカヤック体験



主催：国立岩手山青少年交流の家  
共催：岩手県立陸中海岸青少年の家

対象：小学校5年生～中学校2年生  
定員：30名（応募多数の場合は抽選）  
費用：小学生6,000円  
中学生6,050円  
（食費・宿泊費・活動費・保険代・雑費）

申込み方法：往復はがきによる申し込み  
申込み締切：6月23日（月）必着

※本事業は一般家庭での宿泊や長時間のバス移動が伴います。  
詳しくは裏面をご覧ください。

問い合わせ先：国立岩手山青少年交流の家  
〒020-0601 岩手県滝沢市後292  
TEL:019-688-4221 FAX:019-688-5047  
担当：中村・中田・中野・長谷川

国立岩手山青少年交流の家

# TEN PARK

国立岩手山青少年交流の家

検索



GACHAPIN × MUKKU

国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家 平成27年度教育事業  
「体験の風をおこそう」運動協賛事業

# さんりく体験！ 探検ツアー

7月18日(土)～7月20日(月)

## 1日目 ～助けあう心を学ぶ～

- ・災害時の野外炊事
- ・避難所体験



## 2日目 ～さんりくの暮らしを知る～

- ・三陸鉄道 列車で震災学習
- ・沿岸の家庭での民泊体験



## 3日目 ～さんりくの自然を感じる～

- ・サップ船体験
- ・さんりくの断崖見学



主催：国立岩手山青少年交流の家  
対象：小学生5年生～中学2年生 30名  
費用：小学生7,000円 中学生7,010円（食費・宿泊費・活動費・保険代・雑費）  
申込方法：往復はがきによる申込  
申込締切：6月24日(水) 必着  
※本事業は田野畑村の一般家庭での民泊体験や、長時間のバス移動が伴います。  
詳しくは裏面をご覧ください。

問合せ先：国立岩手山青少年交流の家  
〒020-0601 岩手県滝沢市後292  
TEL：019-688-4221 FAX：019-688-5047



体験の風を  
おこそう



GACHAPIN

×  
MUKKU

©FUJITV KIDS  
国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家 平成28年度教育事業  
「体験の風をおこそう」運動協賛事業



さんりく体験!

飛見隊

7月16日(土) ~ 7月18日(月)



さんりくの今を  
見て・聞いて・感じて

主催：国立岩手山青少年交流の家  
対象：小学生5年生～中学2年生 30名  
費用：約8,000円  
(食費・宿泊費・活動費・保険代・雑費)

申込方法：往復はがきによる申込  
申込締切：7月1日(金) 必着

※本事業は田野畑村の一般家庭での民泊体験や、長時間のバス移動が伴います。詳しくは裏面をご覧ください。



国立岩手山青少年交流の家 平成29年度教育事業  
「体験の風をおこそう」運動協賛事業



さんいくの今を  
見て・聞いて・感じて



さんいく体験!



発見隊

7月15日(土) ~ 7月17日(月)

主催：国立岩手山青少年交流の家  
対象：小学5年生～中学2年生 30名  
費用：約8,000円  
(食費・宿泊費・活動費・保険代・雑費)  
申込方法：往復はがきによる申し込みのみ  
申込締切：6月30日(金) 必着

※本事業は田野畑村の一般家庭での民泊体験や、長時間のバス移動が伴います。詳しくは裏面をご覧ください。



体験の風をおこそう

